事　務　連　絡
平成 26 年 7 月 4 日

地方獣医師会会長　各位

公益社団法人　日本獣医師会
専務理事　矢ケ崎忠夫

豚流行性下痢（PED）ワクチンの 7 月以降の供給について

このことについて、平成 26 年 6 月 24 日付け事務連絡をもって、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課薬事監視指導班課長補佐から別添のとおり通知がありました。貴会関係者にも周知方よろしくお願いいたします。

このたびの通知は、豚流行性下痢（PED）ワクチンについて、6 月下旬から約 22 万回分（日生研製）、7 月下旬から約 44 万回分（日生研製）、8 月下旬から約 50 万回分（化学及血清療法研究所製）の出荷が予定されており、9 月以降も順次出荷を予定しているので、関係者に周知するとともに、今後ともワクチンの円滑な供給に向けた協力を本会会員に依頼されたものです。

また、豚流行性下痢（PED）による養豚農家の経済的被害の防止には、ワクチンの特徴を理解した上で適切に使用することが大切であることから、別添のリーフレットを活用し、ワクチンの正しい使い方についての周知の協力も併せて依頼されています。

本件のお問合わせ先
公益社団法人
日本獣医師会事業担当：笹 川
TEL　03－3475－1601

写

事　務　連　絡
平成26年6月24日

各都道府県動物衛生主管課長　宛
別記　関係団体　宛

農林水産省消費・安全局
畜水産安全管理課薬事監視指導班課長補佐

豚流行性下痢（ＰＥＤ）ワクチンの７月以降の供給について

豚流行性下痢（ＰＥＤ）のワクチンについては、「豚流行性下痢（ＰＥＤ）ワクチンの円滑な供給に係る協力依頼について」（平成26年５月１日付け26消安第588号消費・安全局畜水産安全管理課長、動物衛生課長通知）、及び「６月以降に供給される豚流行性下痢（ＰＥＤ）ワクチンの円滑な供給に向けた協力依頼について」（平成26年５月21日付け事務連絡）によって、円滑な供給に御尽力いただいているところです。

今後のワクチン供給については、６月下旬から約22万回分（日生研製）、７月下旬から約44万回分（日生研製）、さらに８月下旬から約50万回分（化学及血清療法研究所製）の出荷が予定されております。９月以降も順次出荷を予定していますので、関係者へ周知いただくとともに、今後とも、ワクチンの円滑な供給に向けて御協力願います。

また、みなさまのこれまでの取組により、ワクチンは円滑に供給されておりますが、ＰＥＤによる養豚農家の経済的被害を防止するためには、ワクチンの特徴を理解していただいた上で適切に使用することが大切です。別添のリーフレットを活用し、ワクチンの正しい使い方についても、併せて周知いただくよう御協力願います。

【問い合わせ先】
畜水産安全管理課薬事監視班　小牟田、金子
（内線）4531　（直通）03-3502-8701
yakuji_kanshi@nm.maff.go.jp

公益社団法人日本獣医師会
受付
26.6.30
第 180 号

別記　関係団体

公益社団法人　中央畜産会

協同組合日本飼料工業会

全国農業協同組合連合会

全国畜産農業協同組合連合会

一般社団法人　日本家畜商協会

一般社団法人　日本養豚協会

日本養豚事業協同組合

一般社団法人日本ＳＰＦ豚協会

公益社団法人　日本獣医師会

公益社団法人　日本動物用医薬品協会

一般社団法人　全国動物薬品器材協会

一般社団法人　日本畜産副産物協会

全国精麦工業共同組合連合会

全国食肉センター協議会

平成26年6月

豚流行性下痢（ＰＥＤ）ワクチンの使い方

特徴

- 妊娠豚に２回注射することで、分娩後、乳を飲んだほ乳豚の発症を防いだり、症状を軽くすることができます。

使い方

- 用法・用量を守って、分娩前の妊娠豚に２回注射します。
- 子豚や肥育豚にワクチンを注射しても効果はありません。

効果

- 本ワクチンは過去に国内で流行したウイルスを使って開発されました。試験の結果、平成25年10月以降、国内で流行しているウイルスにも効果が認められています。

ワクチンの効果を十分に引き出すには、

- 衛生管理の徹底（こまめな消毒、排せつ物処理など）により、農場にウイルスを入れない、あるいはウイルスの量を減らすことが重要です。
- ワクチン接種を受けた母豚の乳に抗体が含まれます。子豚に乳をしっかりと飲ませてください。
- 母豚がPEDに感染したり、健康管理が良くないと乳を十分に出さないことがあります。分娩舎に持ち込まれるウイルス量を減らして、母豚の重症化を防ぐとともに、健康管理に気をつけましょう。

農林水産省消費・安全局
畜水産安全管理課